

「cocoon」憧れも、初戀も、爆撃も、死も。

原作:今日マチ子「cocoon」(秋田書店) 作・演出:藤田貴大(マームとジブシー) 音楽:原田郁子

走り、跳ぶ少女達が 現在と70年前を 切り結ぶ。

爆撃の音も血糊も絶叫も無し。
儚く激しく躍動する少女達の肉体で
“舞台に大戦下の沖縄を再現する”
奇跡を起こした作品を再創造。



撮影:飯田浩一

2013年の夏、日を追うごとに当日券の列を長く伸ばし、芸劇の地下フロアを静かな熱気に包んだのが、マームとジブシーの『cocoon』だった。その年の演劇回顧では、複数のメジャー紙に採り上げられ、衝撃的な一作として紹介された。それまで、一部の演劇ファンの間で新進の才能として注目されていたマームとジブシー、そして作・演出の藤田貴大だったが、その名前は、この作品で一気に広く知られることになった。

『cocoon』は、人気漫画家・今日マチ子が、沖縄のひめゆり部隊をモチーフに描いた同名コミックを、藤田が舞台作品へと昇華させたもの。全寮制の女子校で、永遠に繰り返されるように思えた退屈で甘やかな日々を送っていた少女が、いつの間にか、第二次大戦下の沖縄でつつましい生活を送る女学生になり、やがて、続く爆撃、果てしない空腹、おびただしい死が

ループする世界を生きることになる。

青春の美しさと戦争の残酷さ、両者を並べて対比させて描くクリエイターはいる。だが藤田はそのふたつを、現代と戦時中というふたつの時代それぞれで、メビウスの輪のようにつなげた。それを可能にしたのは「リフレイン」と呼ばれる執拗な繰り返し。同じシーンを、角度を変えながら何度も何度もハイスピードで繰り返す。そうして俳優の心身に負荷をかけ、生々しさと切実さをもたらすことに成功した。からかいても意地悪も軽やかに飛び交うにぎやかな学校の廊下。大きな太陽と白い砂が輝く沖縄の海。生命力に満ちた輝きと、それらと真逆にある腐臭と闇が、この舞台で鮮やかに立ち昇る。

不可能では、と言われた再演を実現するため、藤田と原作者の今日によるキャストの

オーディションも敢行された。おそらく最後になる『cocoon』を見逃さないでほしい。

文:徳永京子

6月27日(土)~7月12日(日)
シアターイースト 一般発売:4月25日(土)

原作:今日マチ子「cocoon」(秋田書店)
作・演出:藤田貴大(マームとジブシー)
音楽:原田郁子
出演:青柳いづみ、菊池明明、青葉市子 ほか
主催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団) 詳細はP14へ

原田郁子×マームとジブシー リーディングライブ
あらためまして、はじめまして、ツアー
cocoon no koe cocoon no oto

4月28日(火)19:30
シアターウエスト

原作:今日マチ子 作・演出:藤田貴大
出演・音楽:原田郁子 出演:青柳いづみ
主催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団) / マームとジブシー 詳細はP10へ

「障子の国のティンカーベル」

7月12日(日)~19日(日) シアターウエスト

詳細はHPへ



撮影:引地信彦

作:野田秀樹 演出:マルチェロ・マーニ
出演:穂谷友子 / パフォーマー:野口卓磨
一般発売:4月25日(土)

ひとり芝居で描く、ティンカーベルの物語。

野田秀樹が25歳の時に数日間書き上げたというひとり芝居用の戯曲を、野田の盟友であり、『THE BEE』ロンドンバージョンにも出演経験のあるマルチェロ・マーニが演出したのは昨年2月。この戯曲を演じたいと願ひ続けてきた穂谷友子と、蜷川幸雄に見出された新進女優、奥村佳恵がダブルキャストで演じて、まったく異なる印象を残しながらも、戯曲が持つ色あせない瑞々しさを証明して見せた。それを観た人、観られなかった人からの熱いリクエ

ストに応えて、穂谷バージョンが再演される。この物語でティンカーベルは、ピーターパンが「障子の国」と呼んだ日本にいるのだが、その理由は、ティンカーベルの悲しい恋の全容と同時に明らかになっていく。ひとり芝居とはいえ、歌あり踊りあり早変えありで、フィジカル・シアター出身の演出家らしい、賑やかな趣向の作品だ。

文:徳永京子

企画制作:東京芸術劇場
主催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)
東京都 / アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)

芸劇eyes 劇団チョコレートケーキ「追憶のアリラン」

4月9日(木)~19日(日) シアターイースト

詳細はP9へ



日本が、支配者から敗者に転じた時。

紀伊國屋演劇賞団体賞をはじめ、ここ数年次々と大きな演劇賞を受賞している劇団チョコレートケーキ。実際に起きた歴史の出来事、その合間で生きた実在の人から着想した硬派の作劇は、最近の演劇界では少数派だが、誠実な姿勢で公演の度にファンを増やしている。『追憶のアリラン』は、第二次大戦が終結し、35年間に渡る日本の支配から解放された朝鮮半島が舞台。勝者と敗者の反転、揺らぐ正義を、ひとりの日本人官僚を通して描く。

文:徳永京子

脚本:古川 健 演出:日澤雄介

出演:浅井伸治 / 岡本 篤 / 西尾友樹(以上、劇団チョコレートケーキ) / 月影 瞳 / 佐藤 誓 / 辻 親八 / 大内厚雄(演劇集団キャラメルボックス) / 永井若葉(ハイハイ) / 青木シヤモ(タテヨコ企画) / 菊池 豪 / 佐瀬弘幸(SASENCOMMUN) / 渡邊りょう(悪い芝居)

主催:劇団チョコレートケーキ 提携:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

芸劇dance Co.山田うん「春の祭典」「七つの大罪」

4月24日(金)~26日(日) シアターイースト

詳細はP10へ



舞踊欲求の狂おしきタペストリー。

昨年の初演が絶賛された『春の祭典』。数々の巨匠が斬新な演出を手がけたストラヴィンスキーのバレエ音楽をエネルギーに満ちたダンスミュージックと捉えた。自然の欲求に突き動かされ、多彩なリズムと複雑な和音を身体に響かせた粒ぞろいのダンサーたちが「狂うほどに元気に踊る」(山田)群舞に織りあげる。新作『七つの大罪』はプレヒト原作のバレエを山田と川合ロンのデュオが2人1役、1人複数役で演じ、人間の愚かさを謳歌する。文:住吉智恵(アートプロデューサー・ライター)

「春の祭典」

振付・演出:山田うん 音楽:イゴール・ストラヴィンスキー
使用音源:フレリー・ゲルギエフ指揮 キーロフ歌劇場管弦楽団(1999)
出演:荒 悠平 / 飯森沙百合 / 伊藤知奈美 / 川合ロン / 木原浩太 / 小山まさし / 酒井直之 / 城 俊彦 / 西山友貴 / 長谷川 暢 / 広末知沙 / 三田瑠子 / 山下彩子

主催・製作:一般社団法人 Co.山田うん 提携:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団) 協賛:TOYOTA創造空間プロジェクト 協力:公益財団法人セゾン文化財団

「七つの大罪」

振付・演出:山田うん 音楽:芳垣安洋 / フルト・ワイル 原詩:バルトルト・プレヒト
出演:山田うん(ダンス) / 川合ロン(ダンス) / 芳垣安洋(音楽) / 高良久美子(音楽) / 太田恵貴(音楽) / 助川太郎(音楽)

Dステ16th×TSミュージカルファンデーション「GARANTIDO(ガランチード)」

5月21日(木)~26日(火) プレイハウス

詳細はP12へ



D-BOYSと謝珠栄のパワーあふれるコラボレーション

公演に向けて合宿稽古を始めた劇団。寝食を共にしながら、太平洋戦争前後の日系ブラジル移民の物語「GARANTIDO」に取り組む彼らの胸中に、仲間や家族の絆、祖国、日本人というアイデンティティなど様々な思いが交錯する……。オリジナルミュージカルを作り続ける謝珠栄が、今を生きる劇団と劇中劇の移民を並走させて「生きた証」を描く。俳優集団D-BOYSのみなぎるパワー、オーケストラピットを使ったライブ演奏で、5年ぶりの再演はよりダイナミックな舞台に!

演出・振付・作詞:謝 珠栄

出演:柳下 大 / 荒木宏文 / 山田裕貴 / 加治将樹 / 荒井敦史 / 三津谷亮 / 橋本汰斗 / 高橋龍輝 / 大久保祥太郎 / 山口賢貴 / 前山剛久 / マルシア

主催・企画・製作:TSミュージカルファンデーション 共催:ワタナベエンターテインメント 提携:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

芸劇eyes 第5回ブス会*「女のみち2012 再演」

5月22日(金)~31日(日) シアターイースト

詳細はP12へ



作・演出:ペヤンヌマキ

出演:安藤玉恵 / 内田 慈 / もたい陽子 / 高野ゆらこ / 松本まりか / 尾倉ケント / 仗桐 安

服を脱いでも見えない大事なものは?

インパクトのあるユニット名だが、作・演出のペヤンヌマキ(こちらの名前もインパクトあり)の狙いは、誰の心にもある虚栄心や建前と、それらが消えた時に現れる本音の言動。そのギャップの描写は軽やかで鋭く、前作は今年の岸田國士戯曲賞にノミネートされた。観客は大笑いするうち、他人事ではないと気付いてドキリとするはず。『女のみち2012』は、AVの撮影現場で働く女性のさまざまな事情をユーモラスに描く。映像でも強い印象を残す安藤玉恵、松本まりか、内田慈ら、タフな役をさらりと自分のものにする5人の女優の競演にも注目。

文:徳永京子

主催:ブス会* 提携:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)